

「成瀬ダムモニタリング委員会」 第7回委員会の開催結果について

成瀬ダム建設事業は、平成11年5月に閣議アセスに基づく環境影響評価書が公告・縦覧され、一連の環境影響評価手続きが終了しています。

成瀬ダム建設事業の実施においては、平成11年から施行された環境影響評価法や最新の知見等を踏まえ、環境への配慮が必要な事項について、環境の個別分野ごとに専門家の指導・助言を得ながら、成瀬ダム周辺環境の現地調査を継続し、環境保全の検討を行うとともに、既にその一部は対策を実施してきました。

ダム建設工事中の環境保全措置等を適切に実施していくため、工事中の環境モニタリングについて、専門家から指導・助言を得る「成瀬ダムモニタリング委員会」を平成29年3月6日に設立しています。

本日2月22日、秋田市内において「成瀬ダムモニタリング委員会」（第7回）を開催し、令和4年度モニタリング調査結果、生息環境整備の検討及び令和5年度モニタリング調査計画について報告・提案を行い、ご意見をいただきました。

要旨

1. 令和4年度のモニタリング調査結果について

- ・令和4年度のモニタリング調査結果について確認した。

①水質調査（別紙補足資料-1参照）

<調査概要>

- ・平成4年度から調査を実施している。
- ・調査項目は、一般項目（水温、濁度）、生活環境項目（pH、BOD、SSなど）計8項目、健康項目（カドミウム、シアンなど24項目）等の調査を実施している。

<調査結果>

- ・令和4年度の調査結果は、例年同様、概ね環境基準を満たしていた。

【確認結果】

- ・濁水処理対策の実施状況について確認した。
- ・大腸菌数の基準値超過要因として動物による糞便等の自然由来も考えられる。
- ・六価クロムの環境基準値は0.02mg/L以下として今後整理する。
- ・工事に伴う影響を把握するため、今後も調査を実施する。

②クマゲラ調査（別紙補足資料-2参照）

<調査概要>

- ・平成5年度からクマゲラの生息状況の調査と生息していた場合に生息範囲を確認する調査を実施している。

<調査結果>

- ・令和4年度の調査結果は、クマゲラのものと同推察される痕跡（巣穴等）及び個体の確認はなかった。

【確認結果】

- ・クマゲラのものと同推察される古い痕跡は、これまでにダム建設事業地内外で複数確認しており、生息している可能性はあるが、クマゲラを直接確認できていない。
- ・ダム建設事業地は、そのうちの一部であり、影響はないと考えられる。
- ・生息状況を把握するため、今後も調査を実施する。

③-1 植物モニタリング調査（R1～3移植） （別紙補足資料-2参照）

<調査概要>

- ・令和1～3年度に移植したナベクラザゼンソウ、アリドオシラン、オニノヤガラ、テイネニガクサ、エゾスズラン、エゾヒメクラマゴケ、タテヤマウツボグサ、シロヨメナ、ヤマスカシユリの9種のモニタリング調査を実施している。

<調査結果>

- ・令和1～3年度に移植した9種のうち6種の生育を確認したが、オニノヤガラ、エゾヒメクラマゴケ、シロヨメナの3種の生育は確認されなかった。

【確認結果】

- ・令和5年度は、令和2年度以降に移植を実施したナベクラザゼンソウ、テイネニガクサ、エゾスズラン、エゾヒメクラマゴケ、タテヤマウツボグサ、シロヨメナ、ヤマスカシユリの7種のモニタリング調査を実施する。
- ・アリドオシランは、個体数が減少したものの3年連続で確認しており、定着したと考えている。
- ・オニノヤガラは移植個体が消失したものの、湛水区域境界付近にて自生個体を新たに確認したため、監視対象個体に追加する。

③-2 植物モニタリング調査（監視対象個体） （別紙補足資料-2参照）

<調査概要>

- ・令和4年度は、監視対象種として選定したシラネアオイ、ミヤマハタザオ、ミヤマアカバナ、オニシオガマ、ノビネチドリ、センダイヤナギ、コアニチドリ、イヌマカゴの8種の生育状況調査を実施している。

<調査結果>

- ・調査対象種8種のうち、シラネアオイ、オニシオガマ、ノビネチドリ、コアニチドリ、イヌマカゴの5種の生育を確認したが、ミヤマハタザオ、ミヤマアカバナ、センダイヤナギは確認されなかった。
- ・未確認の3種のうち、ミヤマハタザオとミヤマアカバナは毎年生育箇所が変わることが確認されなかった要因と考えている。センダイヤナギについては、来年度改めて現地確認を行う。

【確認結果】

- ・監視対象種8種、新たに自生個体が確認されたオニノヤガラの計9種については、引き続き湛水後の令和9年度にモニタリング調査を実施する。

④ 希少猛禽類調査 （別紙補足資料-3参照）

<調査概要>

- ・平成8年度から調査を開始し、平成10年度に「成瀬ダムに係るイヌワシ・クマタカ調査委員会」を設立し、鳥類の専門家の指導を得ながら調査を実施している。

【確認結果】

- ・イヌワシ・クマタカ調査委員会で詳細を確認しており、当委員会ではクマタカ2

ペアの繁殖確認等について報告した。

⑤-1 魚類調査（別紙補足資料-3参照）

<調査概要>

- ・平成7年度より調査を実施している。
- ・平成26年度からは事業による影響を定量的に把握するため、調査対象魚種を6種として、同一箇所、同一手法で年3回（春季、夏季、秋季）調査を実施している。

<調査結果>

- ・田子内地区で6種、手倉地区で5種、草の台地区で4種を確認した。

【確認結果】

- ・調査対象種の確認種数は変化しなかったが、個体数は若干の変動が認められた。
- ・工事に伴う影響を把握するため、今後も調査を実施する。

⑤-2 魚類調査（ダム上流地点）（別紙補足資料-4参照）

<調査概要>

- ・ダム運用に伴う変化を把握するため、流入河川における魚類の採捕調査、産卵床調査、水温調査を実施した。

<調査結果>

- ・採捕調査ではニッコウイワナ、アメマス類、カジカを確認した。
- ・イワナ類の産卵期に該当する10月中旬～下旬はいずれの沢も産卵適水温（6～10℃）であった。
- ・イワナ類の産卵床を34箇所、産卵行動を9箇所を確認した。

【確認結果】

- ・ダム運用前後の状況を把握するため、ダム運用後も調査を実施する。

⑥大気環境調査（粉じん、騒音、振動）（別紙補足資料-4参照）

<調査概要>

- ・工事が最盛期となる9～10月に、粉じん（降下ばいじん量）（現場近傍）、騒音及び振動（R342沿い草の台地区）の調査を実施している。

<調査結果>

- ・粉じん（降下ばいじん量）、振動の観測値は本体着工前を下回ったが、騒音の観測値は環境基準値を下回るものの、工事車両の増加により本体工事着手前より大きくなっている。

【確認結果】

- ・工事車両の増加により騒音が大きくなっていると考えられ、今後の変化に留意が必要である。
- ・工事に伴う影響を把握するため、今後も調査を実施する。

2. 生息環境整備の検討

<検討概要>

- ・保全対象種のヒメアカネ、ゲンゴロウ、ヒメシジミ、ヒメシロチョウの生息環境を整備するため、湿地・池沼環境及び草地環境の創出を検討している。

<検討結果>

- ・令和4年度、ダム建設予定地周辺でヒメアカネの生息が確認された。このことから、池沼・湿地ゾーンは令和3年度報告を基本に整備する。

- ・草地ゾーンは、ヒメシロチョウの生息は今年度確認できなかったが、ヒメシジミ、ヒメシロチョウ合わせて、草地性チョウ類ゾーンとして一体的に整備する。
- ・環境創出候補地整備は、桧山台地区の跡地整備の予定に合わせて実施する。

【確認結果】

- ・今後は、環境創出箇所の具体的整備に向けて準備を進める。

3. 令和5年度のモニタリング調査計画

＜計画概要＞

- ・令和5年度は、生態系典型性河川域のうち、試験湛水前の魚類、底生動物、付着藻類、岩盤の状況調査、河床材料等の調査を実施する。生態系典型性河川域のその他の項目と、生態系典型性陸域は、令和6年度に試験湛水前の調査を予定する。
- ・令和5年度の調査項目は、定期水質調査、出水時調査、クマゲラ調査、植物モニタリング、大気環境調査（粉じん、騒音、振動）、希少猛禽類調査、魚類調査、底生動物調査、付着藻類調査、岩盤の状況調査、物理環境調査とする。

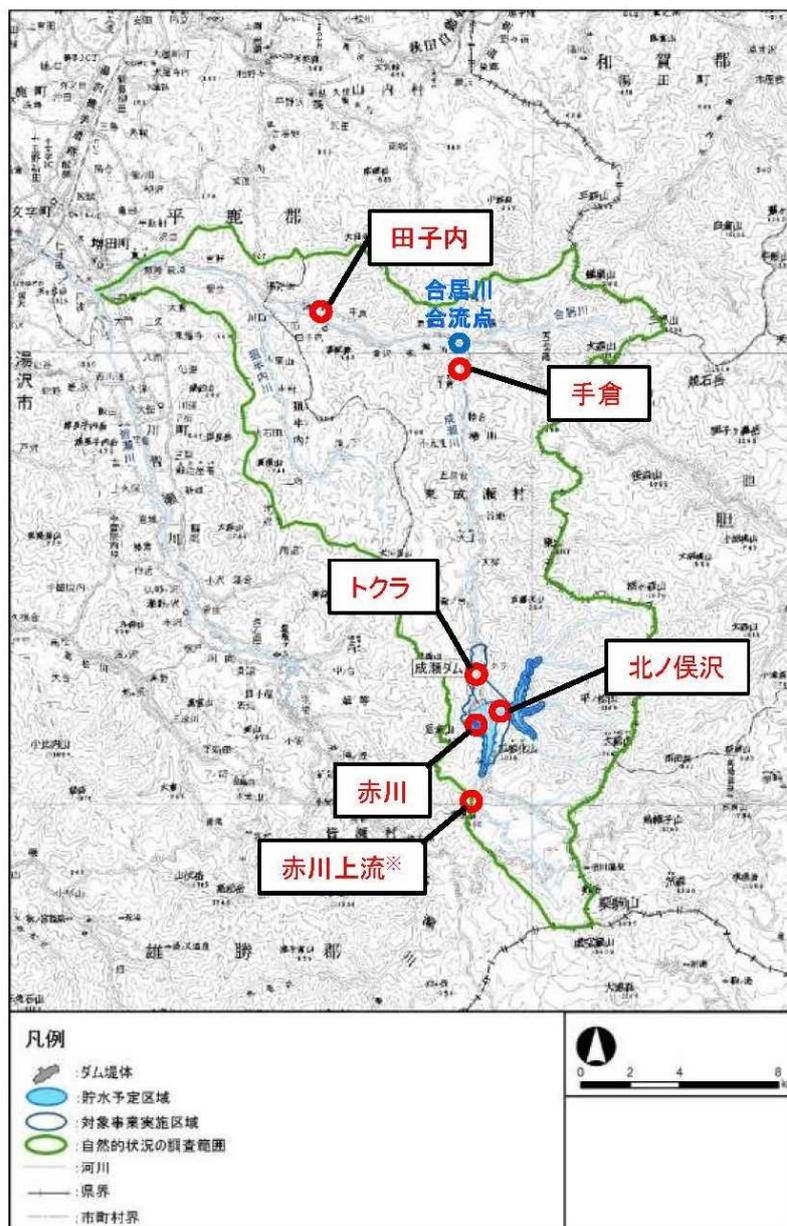
【確認結果】

- ・令和5年度のモニタリング調査計画について確認された。
- ・生態系典型性河川域を再区分（流入河川、ダム湖、下流河川）した。

以 上

① 水質調査 参考資料

項目	令和4年度調査内容		
	調査地点	調査項目	調査日
定期水質調査	流入河川 : 北ノ俣沢、赤川、赤川上流 下流河川 : トクラ、手倉、田子内 (計6地点)	流量 一般項目(水温、濁度) 生活環境項目 (pH、BOD、COD、DO、SS等) 富栄養化項目 (アンモニウム態窒素、硝酸態窒素等)	月1回 赤川、北ノ俣沢 : 4月~11月 赤川上流 : 5月~11月
		健康項目(カドミウム、全フッ素、鉛等)	年2回(5月、10月)



※赤川上流は、H30年9月から実施

水質調査地点 位置図

② クマゲラ調査 参考資料

令和4年度調査内容		
調査地点	調査項目	調査時期
事業区域周辺の3地区	<ul style="list-style-type: none"> ・ラインセンサス法 ・呼び込み法 ・地区センサス法 	秋季 ・9月～10月



令和4年度調査に確認したクマゲラ以外のキツツキ類の痕跡

③-1 植物モニタリング調査 (R1～3移植) 参考資料



タテヤマウツボグサの生育状況 (R4. 6. 17)



テイネニガクサの生育状況 (R4. 6. 17)

③-2 植物モニタリング調査 (監視対象個体) 参考資料



オキノヤガラの自生個体 (R4. 8. 4)

④希少猛禽類調査 参考資料



希少猛禽類 調査範囲



クマタカAの幼鳥 (R4. 10. 5)



クマタカBの幼鳥 (R4. 10. 4)

⑤-1 魚類調査 参考資料

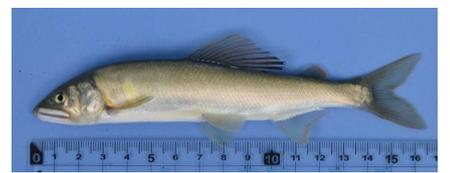
調査項目	令和4年度調査内容		
	調査地点	調査項目	調査時期
魚類調査	<ul style="list-style-type: none"> ・ 田子内地区 ・ 手倉地区 ・ 草の台地区 	採捕調査 ・ 定置網 ・ 投網	春季 (6月上旬) 夏季 (8月下旬) 秋季 (10月上旬)



エゾウグイ



ウグイ



アユ



ニッコウイワナ



サクラマス (ヤマメ)
調査対象魚種



カジカ

⑤-2 魚類調査（ダム上流地点） 参考資料

調査項目	令和4年度調査内容		
	調査地点	調査項目	調査時期
産卵場調査	・ダム上流	採捕調査 水温調査 産卵床調査	夏季（7月下旬） 秋季（7月下旬） 8月上旬～11月上旬 10月中旬、11月上旬



イワナ類の産卵床確認地点



イワナ類の産卵行動確認地点

⑥大気環境調査（粉じん、騒音、振動） 参考資料

調査項目	令和4年度調査内容		
	調査地点	調査項目	調査時期
粉じん	桧山台地区	降下ばいじん量	9月～10月
騒音	草の台地区	騒音レベル	10月中旬
振動	草の台地区	振動レベル	10月中旬



粉じん調査の実施状況



騒音、振動調査の実施状況

第7回 成瀬ダムモニタリング委員会

令和5年2月22日(水) 13:00～15:30
クラウンプラザホテル秋田 4階 シリウスV

次 第

- 開 会
- 挨拶 成瀬ダム工事事務所長
松富委員長
- 議 事
 - 1. 第6回委員会でのご意見に対する対応
 - 2. 令和4年度のモニタリング調査結果
 - 3. 生息環境整備の検討
 - 4. 令和5年度のモニタリング調査計画
 - 5. その他
- 閉 会